

教科	国語	科	科目	言語文化	学年	第 1 学年	系列 コース	共通
単位数	3	単位	教科書	高等学校 言語文化(数研出版)				
副教材	「体系古典文法」(数研出版) 「精選漢文」(尚文出版) 「新国語便覧」(大修館書店)							

## 1. 学習の到達目標

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。

## 2. 評価の観点

①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。
②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を有している。

### 3. 学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学期	4月	1	古文の世界を楽しむ	・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読み、古典を学ぶ意義について理解する。
		2	宇治拾遺物語	
		3	「児のそら寝」	
	5月	4	日本語の中に生きる漢文	・我が国の文化と外国の文化との関係に気づかせ、漢文への興味・関心を持つ。
		5	入門一	
		6	古文の世界を楽しむ	
		7	「竹取物語」	
		8	かぐや姫のおひたち	
		9	和歌による心の交流「伊勢物語」 芥川・眞井筒	
	6月	10	故事と成語	・漢文訓読の基本を確認しながら、平易な短い文章を読み、漢文の内容を理解する。
		11	「狐借虎威」	
		12	「朝三暮四」	
		13		
	7月	14	言語活動	・「大和物語」との比較を通して表現や構成の特徴を理解し、調べたことを適切に文章にまとめたり発表する。
		15	読み比べる・大和物語一沖つ白波一	
		16		
2 学期	8月	17	現代にも生きる教え	・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取り、表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。
		18	「徒然草」	
	9月	19	つれづれなるままに	・比較的長い、平易な文章の漢文に触れ、訓読のきまりを確認しながら、中国の史伝に特徴的な簡潔な表現を味わう。
		20	ある人、弓射ること習ふに	
		21		
	10月	22	読み継がれる歴史	・日記を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。
		23	「管鮑之交」	
		24	「先從隗始」	
		25	「鶏口牛後」	
	11月	26	平安宮廷文学の世界	・唐詩を読み味わい、中国文学への関心を高め、中国の自然や、人間の心理が詩にどのように詠まれているかを考え、詩に表現された作者の心情について理解させる。
		27	「土佐日記」	
		28	門出 帰京	
		29	漢詩のことば	
		30	「漢詩」	
31		静夜思・山中問答・月夜		
12月	32	詩歌の系譜	・和歌の修辞法を理解し、先人が創意工夫を重ねた優れた表現に触れ、和歌によまれた思想・感情・情景を読み取る。	
	33	「万葉集」		
	34	「古今和歌集」 「新古今和歌集」		
3 学期	1月	35	戦乱下の人間像	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読みを深める。
		36	「平家物語」	
		37		
		38	木曾の最期	
	2月	39	論説の文章	・文章表現、構成の巧みに注目し、現代にも通用する作者の人生観や真情を理解する。
		40	「雑説」	
		41	論語とその注釈	
	3月	42	「論語」	・文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、その意図を理解し、孔子・孟子の思想が現代においてどのような意味を持っているかを考える。
		43		
		44	先人を思う旅	
		45	「おくの細道」 序・漂泊の思ひ・平泉 ・文学や伝統を継承してきた人々の思いや俳諧の表現技法について認識を深める。	

### 4. 評価の方法

総合的に定期考査の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、各評価の観点（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。